

拝啓 今年も早や9月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今年の夏の暑さ、蒸し暑さは、異常だったと思いました。お元気でお過ごしになられたでしょうか。近所の公園では、まださるすべりの花が咲いています。

今回は、小西芳之助先生の『ガラテヤ人への手紙講解説教』引用の第3回目で今回のエンカウンターの5頁には、次のように書かれています。

#### 「第2の感想——土台の信仰

パウロの宗教的な展開についてであります。パウロは、ユダヤ教を十分知った上で、ユダヤの唯一神教を土台として福音というものを取り入れました。この土台の信仰が無かったならば、福音は迷信となり、お稲荷さんの信仰と同じになってしまいます。この十字架の贖いというものを従来信仰の上にながちり置きました。これはパウロの卓見であります。」

十字架の贖罪の信仰は、日本人には、難しいと思いますが、ユダヤ教をよく知っていたパウロには、難しくなかったのでしょう。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

#### 小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』8月31日

「私は、称名しつつ、どんなことでもなし、また何処へでも行こうと努める。それは、キリスト・イエスが一緒にいて下さるからである。

そして私はそれをなすのに急いだり、心配したりせずにゆっくりと安心してやる。それは、私がなすのでなく、キリストがなして下さるからである。

かくして、称名することは、私を天に導いてくれるのみならず、日々の私の義務をなすのを助ける。

御名のあがめられんことを。」

#### 新渡戸稲造先生『一日一言』9月25日

「事の成る成らぬは天に任し、自分はひとえにその日その日の務めを全うすれば足る。その結果が思う通りに行かずとも、これ必ずしも失敗でない。植うる種は一月で生ゆるもあり、100年後に芽すもある。人生は限りなきの種まき也。発芽も収穫も天意にあり。」

#### 松下幸之助先生『道をひらく』「自分の仕事」

「どんな仕事でも、それが世の中に必要なればこそ成り立つので、世の中の人々が求めているのでなければ、その仕事は成り立つものでない。…だから自分の仕事は、自分がやっている自分の仕事だと思わないのはとんでもないことで、本当は世の中にやらせてもらっている世の中の仕事なのである。ここに仕事の意義がある。…

大切なことは、世の中にやらせてもらっているこの仕事を、誠実に謙虚に、そして熱心にやることである。世の中の求めに、精いっぱいこたえることである。おたがいに自分の

仕事の意義を忘れたくないものである。」

#### 内村鑑三先生『統一日一生』9月13日

「神の教えであるキリスト教は、了解（わか）って、了解るものではない。信じて了解るものである。了解らないから信ずるのである。了解れば信ずるの必要はない。そして了解ってしまって信ずるの必要な宗教は、真の宗教でないから、了解る必要のないものである。宗教は基これ信ずべきものであって、了解るべきものではない。信ずればこそ、宗教に能力があるのである。キリスト教が神の教えである最も明らかな証拠は、それが了解りそうで了解らないことに於いて在る。その点において仏教は違う。仏教は了解る。ゆえに仏教徒は言う、仏教は宗教にあらず、哲学であると。それ故に、仏教は解しがたしと言えども解し得ざるにあらず。されどもキリスト教は信ぜずして到底わからない。我を折り、我が罪を言い表し、わが無知、わが無能、不善を認めて、神の前にへりくだりて初めてキリスト教の何たるかが了解る。キリスト教は傲然としてこれをわが物となすことは出来ない。嬰兒の如き者となりて神の前に平伏して、彼に教えられて、その奥義に達することができる。」

#### バークレー先生「ウィリアム・バークレイの一日一章」(8月18日)

「旅に出て (2)

人生の旅に出る人は、どうやって、どの道を通って、目的地に達するかを決めなければならない。

ここでも、おおざっぱに行って、人々は2つの部類に分けられる。(1) 成功への唯一の道は、困難な仕事を誠実かつ良心的にやること以外にない。ヘシオドスが言ったように、神々は汗という代償なしに、代価なしには何物をも与えたまわないと信ずる人々。(2) 略

是だけのことははっきり言える——とりわけ牧師の場合がそうである——次に移る仕事のことばかり考えていたら、今の仕事をうまくやることは絶対にできないということ。いま自分がやっている仕事は、自分にとって、世界にあるただ一つの仕事である、というつもりでやるのでなければならない。その時——その時にのみ——次の仕事が折よく自然にやって来るのである。」

#### カウマン先生『山頂を目指して』8月12日

「私があなたにお願いするのは次の事です。決して朝の祈りを無視したり、短くしたり、急いで済ませたりするようなことがあってはなりません。特に密室における神との交わりをおろそかにしないように注意なさい。信仰生活において、これほど致命的なものはないのです。…」

「ひそかにイエスの御許に行きなさい」。彼は、今この瞬間にも、あなたの近くにおら得る。」

妻の和枝が亡くなってから7カ月が過ぎました。エンカウンターをコピーするために、いつも横浜駅西口の近くのキンコーというお店に行きます。そのキンコーの近くに、「松栄堂」と京都のお香の店があります。或るきっかけから、その松栄堂で、香りがよいと言われる線香を買って、和枝の写真の前に立てますと、気持ちが落ち着き、写真にむけて話しかけることが容易にできることに気がつきました。そのことを発見したものですから、今では毎日朝晩折にふれ、線香を立てて、妻と会話をし、毎日の報告をしたり、お願いをしたりしています。

小西先生のカセットテープの説教集を、3年程前から、段々にCDに変換する作業を進めています。12月までに、第10期の変換計画として旧約聖書のダニエル書講義を返還した後、来年3月ごろ、第11期として、年末・年始説教集を、CDに変換致します。

新型コロナは、第5類という扱いになりましたが、最近の電車の中とかスーパーでは、まだマスクをされている人の方が半分ほどおられます。しばらくは、マスク、手洗い、うがいなどは、必要と思われるときに実行されて、十分ご注意下さるようお願い申し上げます。

9月21日

山口周三

エンカウンターの読者各位